

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 愛知県豊橋市立豊城中学校 (※正式名称を記載)

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫<sup>※注 1</sup>

☒ 中学校 ☐ 中高一貫<sup>※注 2</sup> ☐ 高等学校

☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校

☐ 特別支援学校

☐ その他（例：小中高一貫）

※注 1 義務教育学校を含む ※注 2 中等教育学校を含む

所在地 〒440-0801

愛知県豊橋市今橋町 2 番地の 1

E-mail [hojo-j@toyohashi.ed.jp](mailto:hojo-j@toyohashi.ed.jp)

Website

児童生徒数 男子 153 名 女子 161 名 合計 314 名

児童・生徒の年齢 12 歳 ～ 15 歳

## 2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

## 3. 活動内容

### (1) 活動の概要

当校は、「知性・品性・感性あふるる豊城中」をモットーとして、ESD を伝統文化の継承と地域貢献と捉え、ESD の実践を通して自ら地域の中で自分を生かすの力の育成を目標とした。

具体的には、プロジェクト～継 (KEI) ～を柱に、①伝統文化継承に係る教育、②国際理解教育、③地域貢献に係わる学習を行った。

### (2) 活動の詳細

#### ① 活動内容

ア プロジェクト～継 (KEI) ～ I 伝統文化継承活動 (全校生徒)

#### I チーム祇園

7 月 22 日 (土) に行われた豊橋祇園祭 (校区にある伝統文化で、1 万発以上の打ち上げ花火があげられる江戸時代から続く祭) に向け、教育活動を進めてきた。

5 月当初の全校集会では、まず、プロジェクト～継 (KEI) ～そのものの活動内容を教務主任が説明を行った。次に、3 年生を中心とした有志ボランティア集団 (チーム祇園企画委員) を募集・立ち上げ、祇園祭に向け、自分たちにできるボランティア



を考えた。5月22日（月）には、祇園祭奉賛会の方を講師にお招きし、出前講座「祇園祭から学ぶ」会を行った。その歴史や人々の伝承してきたことがらを聞いた。最終的に、ボランティア内容は、奉賛会の方ともすり合わせを行い、「来場者へ、ごみの持ち帰りを促すごみ袋の配付」を行うこととなり、企画委員から全校集会でボランティア（活動への参加者）を募集した。約50名の生徒が集まり、引率教諭とともに活動を行い、奉賛会・来場者ともに多くのお礼の言葉をいただき、生徒たちも達成感を味わった。

## Ⅱ チーム文楽

本校区には、市指定無形文化財「飽海人形浄瑠璃吉田文楽保存会」がある。また、平成19年度から1年生を対象に総合的な学習の時間の取り組みの一環として、保存会の方々を招き、その歴史や人形浄瑠璃のしくみ、遣い方について学ぶ会を継続してきている。今回、1年生を中心に企画委員を募集し、毎年11月に開かれる保存会の定期公演に向け、来場者へ「新聞（吉田文楽の紹介）」を作成し、配付するというボランティア活動を保存会の方と話し合っ



## Ⅲ チーム鬼

本校区には毎年2月11日（日）に、豊橋鬼祭りという奇祭が行われる。この伝統文化についても、9月に企画委員を募集し、祭奉賛会との話し合いの中、祭でかつて販売されていた鬼のお面（郷土玩具）作成のボランティア活動、参拝者に配付するたんきり飴の袋詰め作業の活動を行うこととなった。また、11月20日（月）には、奉賛会の方を招き、鬼祭りの歴史や、祭りで行われる行事の意味などの話を聞く「出前講座」を全校集会で行った。お面づくりについては、その技法の伝道師（講師）として「竹とんぼの会」の方々を招聘した。



## Ⅳ プロジェクト～継（KEI）～Ⅱ 国際理解活動（一部生徒）

本校は、1987年（昭和62年）から中国南通市第一中学校と友好提携を結んでいるが、2004年（平成16年）に訪問団が来校して以降、交流が途絶えていた。平成28年に久しぶりに使節団が来航したのを機にその交流が再開され、今年度は「プロジェクト～継～Ⅱ」の取り組みとして、国語の競書会、理科の生物



スケッチ、美術の授業での平面作品の中から各教科全校で6点ずつ教師が選考した作品を、第一中学校に郵送し、贈呈した。

## ウ 地域貢献活動（全校生徒）

### I アルミ缶収集活動

全校生徒で集めたアルミ缶を換金し、豊橋善意銀行に届け、福祉に役立てていく活動である。第1回が7月、第2回が10月、それぞれ1週間の登校時に、「福祉委員会」が主に呼びかけを行って取り組んだ。生徒は自宅のためである缶を持ってくるが、中には、登校中、通学路に捨ててあったものを拾って美化活動を兼ねる生徒もいた。収集期間中、生徒は持って来た缶をレジ袋等にまとめて教室保管をしておき、最終日に、事前連絡しておいた回収業者に回収してもらった。2回とも約4千個の缶が回収でき、社会貢献できた。

### II エコキャップ回収活動

年間を通じて常時行う活動である。ペットボトルキャップ（エコキャップ）を回収し、ワクチンに変えてもらえることを学んだ生徒たちが始め、9年続いている活動である。学級には専用の回収箱が常設しており、自宅でたまったエコキャップをもって来れる日に持ってくる。さらに、学校に隣接している市役所庁舎内に常設してある回収箱にも一般市民から協力を仰ぎ、その箱の中のエコキャップの回収も各学級が輪番制で回収している。この回収日は、年度当初特別活動部から提案がなされた。全校生徒へはこの日の予定の提案を生徒会執行部が中心となって行った。この他に6月にPTAと生徒、教職員が協力して取り組む資源回収7月・12月の保護者会の際に行われる持ち寄り資源回収（保護者が学校に持参）にもエコキャップの回収がなされた。今年度は約38,000個の回収があった。業者を通してワクチンに変えるために貢献でき、生徒も満足感を得た。



### III 福祉学習会（有志生徒）

本校では原則として木曜日が部活動なしの日となっており、教職員は会議や研修、生徒たちは一斉下校し、自分のために時間を費やせる。しかし、その日を使って年間10回の「福祉学習会」に精を出す生徒もいる。彼らは自己申告により参加をし、「福祉学習会」では「点字」「手話」「病院ボランティア」の各活動に分かれて取り組んだ。「点字」と「手話」講座については、学校に居残って地域のボランティアによる講師の指導のもと体験活動を行った。「手話」では、簡単な日常会話や「歌」を目標に毎回の講座を真剣に取り組めた。「点字」では、市販の「絵本」に点字用テープに点字を印字し、10回の講座を通して

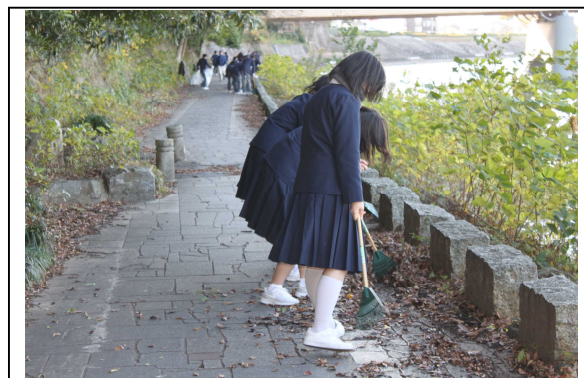




障がい者用の絵本を作成することができた。「病院ボランティア」では、隣接している「病院」を訪問し、お年寄りの話し相手になる活動を行ってきた。はじめは、何を話せばよいのかわからず、戸惑いを隠せなかった生徒たちも、10回の訪問を終えるころには、あらかじめ交流内容を考えておくなど、目的意識をもって取り組める生徒が増えた。5月11日を皮切りに11月9日まで都合10回の活動を継続して行ったあと、参加生徒たちは1月22日の全校集会で活動報告のプレゼンテーションを行った。

#### Ⅳ 豊川クリーン作戦（全校生徒）

当初は、隣接する豊橋公園のボランティア清掃から始まった自主清掃活動であるが、行事の精選に伴い、学校の隣を走る国道沿いの歩道や、隣接する1級河川である豊川の遊歩道の清掃を行うことで、環境保全への意識を高めることをねらいとしている。今年度は、11月6日に実施できた。豊川の遊歩道の清掃と、その沿道の清掃活動を行った。



#### A. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

#### B. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

#### C. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 時間外活動の時間を利用 )	

D. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。

・プロジェクト～継（KEI）～の取り組みについて、まずアの伝統文化の継承活動においては、1年生の吉田文楽のケースは総合的な学習の時間として位置づけ、祇園・鬼祭のケースは、特別活動として位置づけた。また、イの国際理解活動においては、美術・理科・国語の各教科として位置づけた。

・ウの地域貢献の取り組みについては、特別活動の時間として位置づけた。

・現存する総合的な学習の時間と特別活動の時間においてすでに取り組んでいる活動もたくさんあるため、教師と生徒が負担にならないよう、どこにESD活動の要素があるのかを見極めながら、息の長い活動にしていけるよう、年次ごとに見直しをする必要がある。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

・特にプロジェクト～継（KEI）～のアの伝統文化の継承活動については、企画の段階は3つの学年に分担しながら考えさせ、ボランティア活動に関する部分を有志の募集としながら進めたことは、教師・生徒とともに負担なく、しかもやる気を大切にした取り組みにできた。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部／外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（２００字程度）

・これらの活動を、ただ押し付けのように行ったり、「やらされ感」にしたがって行う活動にならないよう、「出前授業」を行って、地域の「中学生の手助けの必要感」を生徒に、切実な課題として感じられるような工夫等を行うことが効果につながると考える。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（２００字程度）

・特に「プロジェクト～継（KEI）」～については、毎回、報道機関への取り組み資料を事前に送付し、取材を受け、新聞等にそれらの取り組みの成果を掲載していただき、地域の方への、本校生徒の取り組みが次第に浸透していった。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）

・生徒たちはESDパスポートを所持し、ボランティアを一つのやる気にしている。30ボランティア達成時には、豊橋ユネスコ協会の職員から、直に認定証を受け取った。その際、協会の職員から、ユネスコの取り組みや、現状の話を聞き、自分たちの取り組みの必要性を感じ、継続していくことの大切さを感じることができた。

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（２００字程度）

・プロジェクト～継(KEI)～のイの取り組みでは、中国南通市第一中学校との作品交流を通して、少しずつよその国の文化に触れる大切な機会となった。

⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（２００字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

・保護者のみならず、特に地域の人々との交流やコミュニケーションを通して、自分たちが地域に一員としてなくてはならない存在であることに気づき、そのことが普段の学校生活の中での自己肯定感へとつながった。

（３）平成 30 年度の活動計画（２００～４００字程度）

・今年度立ち上げたプロジェクト～継(KEI)～を、さらに精選しながら年度当初にはコーディネーターとの推進委員会を始め、祇園・文楽・鬼祭りと、さらに活動の幅や質を高めていきたい。  
・プロジェクト～継(KEI)～のイでは、今回取り組んだお面づくりでできた作品を送付することで、より日本らしさを中国の中学校に伝えることができると思う。  
・地域貢献活動については、より多くの生徒が参加できる方法について、生徒会執行部を中心に検討していけるとよい。